



宗岡二小だより

学校教育目標

○よく考える子 ○やさしい子 ○たくましい子

志木市立宗岡第二小学校

令和3年度 No 4

令和3年7月1日

志木市上宗岡3丁目13番1号

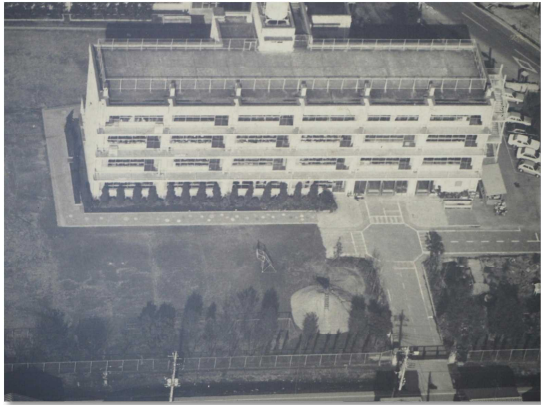
TEL 048 - 473 - 2305

児童数7月1日現在389名



「1枚の写真から」

校長 可知 良之



先日、校長室の棚の奥から古い写真が出てきました。開校10周年記念と書かれていたので昭和58年頃の写真なのでしょう。学校の様子も昭和時代を思わせるレトロな雰囲気が出ていました。写真をじっくり眺めていると南昇降口（玄関）前に横断歩道のようなものが書かれています。まるで道路の交差点のようです。実は、本校は「第2次交通戦争」と言われていた昭和50年代後半、交通安全推進校の指定を受けていたことがありました。羽根倉バイパスに加えて秋ヶ瀬橋と羽根倉橋を結ぶ通りのおかげで移動車両が多く、子どもが交通事故に巻き込まれることが極めて多かったことが指定を受けた理由だったのでしょう。令和の時代になった今でも、依然として登下校には気を付けなければいけません。つい先日、福岡市の中学3年生が時速100kmもスピードを出した車にはねられ命を落としたというニュースがありました。きちんと歩いていても大人のルール違反で被害に遭うこともあります。

小学生の中でも一番事故に遭いやすいのは1年生です。通学に慣れていないことも理由の1つですが、視野が極端に狭いこと

が大きな理由です。一般的に子どもの視野は大人の60%程度とされています。角度でいうと概ね90度程度です。しかも視点が低く植え込みなどで車が見えないこともあります。特に雨の日は体に合っていない大きな傘で更に視界が狭くなります。1年生の交通安全教室で「右よし、左よし、右よし」と大きく左右に首を振って手を挙げて渡る動作は身を守る術の1つなのです。良識あるドライバーなら、安全運転に心掛け徐行運転をしますが、ドライバーからすると子どもの動きは予測不能です。真っ先に目に飛び込んでくる黄色のランドセルカバーを見て不測の事態に備えています。傘も昔ながらの黄色がいいそうです。

近頃、大人の自転車マナーもほめられたものではありません。車道と歩道の区別なく車両としての意識に欠け左右お構いなしに走行している大人がなんと多いことでしょうか。愕然とします。これでは子どもたちが自転車安全教室でいくら勉強しても身に付くはずがありません。小中学生の自転車事故は毎年多発しています。ハインリッヒの法則によれば1件の重大事故が起きる前には29件の軽い事故が起き300件の予兆があるそうです。この予兆をしっかりと押さえておく必要があるといます。これから生きる子どもたちは「もしかしたら」という危険な事態を察知する力が必要です。たぶん大丈夫だろうなどという甘い見通しでは生きる力は身に付きません。本当に賢い子とは、こうした力を備えた子ではないのでしょうか。1枚の写真を見てこのようなことを思いました。